『はなやか関西〜文化首都年〜2013「関西の食文化」』 有効性の検証に関する報告書 【最終報告書】

平成 26 年7月

国土交通省 近畿地方整備局

『はなやか関西〜文化首都年〜2013「関西の食文化」』 有効性の検証に関する報告書

1.「はなやか関西~又化自都年~」の有効性検証	
1. 実施した取組	3
(1)関西各地の「関西の食文化」取組参加団体をネットワーク化	3
(2)実行委員会が実施する取組	4
①「関西の食文化」シンポジウム	4
②「関西の食文化」ツアー	5
③プロモーション事業	8
④「関西の食文化」タイアップ企画	11
2. 効果の把握と課題の抽出	12
(1)効果と課題	12
①「はなやか関西~文化首都年~」及び各取組参加団体の活動の認知度向上…	·12
②地域振興・経済波及効果	16
(2)総括	17
①「はなやか関西~文化首都年~」及び各取組参加団体の活動の認知度向上…	·17
②地域振興・経済波及効果	17
③インバウンド観光	18
Ⅱ. 今後の展開方策	
1. 今後の展開方策について	19
(1)基本的な考え方	19
(2) 平成 25 年度の効果と課題を踏まえた具体的な取組方針について	20
①「はなやか関西~文化首都年~」の認知度向上に向けて	20
②地域振興・経済波及効果の強化に向けて	20
③インバウンド観光の強化に向けて	21
2. 「関西の食文化」(2014 年度) の継続について	21

I.「はなやか関西~文化首都年~」の有効性検証

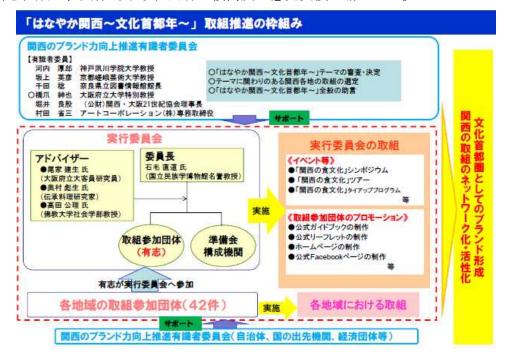
平成 25 年度に実施した『はなやか関西~文化首都年~2013「関西の食文化」』(以下、「本事業」という。)に関する各取組について、関西全体にもたらす影響等(「関西の食文化」に対する普及啓発、伝統文化の継承、地域資源活用・連携強化(関西ブランドの創造)、情報発信等)について分析し、その有効性を検証する。



1. 実施した取組

(1)関西各地の「関西の食文化」取組参加団体をネットワーク化

取組参加団体が実施する取組を本事業のプロモーションで紹介するとともに、実行委員会を組成し、具体的な取組内容の検討及び意見交換の場とした。



(2)実行委員会が実施する取組

① 「関西の食文化」シンポジウム

関西の"ほんまもん"「関西の食文化」の魅力・歴史・取組等について広く知っていただくことで、「関西の食文化」に関連する地域づくり活動を活性化させ、「文化首都圏・関西」の形成を目的に実施した。

【開催時期】

平成26年3月12日(水) 13時30分~17時00分(入場無料:先着申込順)

【会場】

グランフロント大阪 北館タワーB 10階 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム RoomB01+B02

【出席者】

151名(市民、地域づくり関係者、文化関係者、行政 等)

【タイトル】

『和食;日本人の伝統的な食文化』ユネスコ無形文化遺産登録記念 "はなやか関西"「関西の食文化」シンポジウム

【プログラム(敬称略)】

開会挨拶:[主催者挨拶]

寺田千代乃(公益社団法人関西経済連合会副会長)

[共催者挨拶]

松村明子(関西広域連合広域観光・文化振興局長)

基調講演:石毛直道(国立民族学博物館名誉教授)

「関西の食文化と歴史~日本食の源泉は関西にあり~」

学生研究発表:[司会] 尾家建生(大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員)

- ① 竜王みそを使用した商品開発プロジェクト(追手門学院大学見山の郷商品開発プロジェクトチーム)
- ② なにわ伝統野菜の生理作用について(大阪市立大学大学院生活科学研究科)
- ③ 奈良の食文化 2013 (奈良県立奈良朱雀高等学校 奈良朱雀ビジネス企画部)
- ④ 門真れんこんの伝承(阪南大学国際観光学部)

パネルディスカッション: 関西ブランド「食」の魅力発信と誘客促進に向けて

[コーディネーター] 髙田公理(佛教大学社会学部教授)

[パネリスト]寺田千代乃(アートコーポレーション(株)社長・公益社団法人関西経済連合会副会長)

門上武司(一般社団法人全日本食学会・理事長)

髙橋拓児(京料理木乃婦三代目若主人)

閉 会 挨 拶:伊藤英隆(「はなやか関西~文化首都年~2013」実行委員会事務局長)

【御登壇者(敬称略)】

出演者プロフィール

基調調演



石毛 直道(いしげなおみち)氏

・成立民族学博物館名誉教授1937年干量原生まれ。1963年京都大学文学部卒業。 専門は、民族学、食文化論。国立民族学博物館教授、同 館長を続て、現在は国立民族学博物館名誉教授。総合 研究大学院大学名誉教授。はなやか関西一文化首都年 2013「製西の食文化」実行委員会委員長

学生研究発表(司会)



尾家 建生(おいえたてお)氏 大阪府立大学観光產業軌跡研究所客員研究員 1948年福司県生まれ。専門は、観光学・観光事業論 旅行產業論·観光資源論。大阪観光大学観光学部教授 を経て、現在、大阪府立大学観光産業報略研究所高員 研究員。フードツーリズム階、潜地型観光路を中心に取 り組み、「フードツーリズム研究会」において共同研究 を推進している。

バネルディスカッション(コーディネーター)



高田 公理(たかだまさとし)氏 0)佛教大学社会学部教授

1944年京都府生まれ。1968年京都大学理学部卒業。 武庫川女子大学生活躍境学部生活情報学科教授など無 任い、現在、情報大学社会学部教授。専門は、情報文明学、 都市文化論、觀光文化論。族と観光、食文化、聰好品、温泉 振りなど「豊かさを超える楽しみ」を追求。

パネルディスカッション (パネリスト)



寺田 千代乃(てらだちょの)氏 ◎アートコーボレーション(株)社長 ◎関西経済連合会副会長

● 関西経済連合会副会長 アー・コーポレーション(株)(アート号間センター)の副 書者であり、それまで運送業の一個であった「予練」をサービス集として確立させた、日本を代表する女性経営者、 図西経済連合会において、毎の政策・文化概定委員会を 担当。2009年には、目前すべき関西の将来像のコア・コンセフトを「はなやか関西」とする建国を突破が、側面への 素を使きや建設部を力を示めるがはブルルが開めたビター 素を使きや建設部を力を示めるがはブルルが開めたビター

パネルディスカッション(パネリスト)



門上 武司(かどかみ たけし)氏

◎一般社団法人全日本・食学会理事長 1952年大阪府生まれ、フードコラムニスト、料理雑誌「あ まから手帖」の編集顧問を務めるかたわら、食関係の 執施、編集業務を中心に、プロデューサーとして活動。「関 西の食ならこの男に開け」と評判高く、テレビ、雑誌、新 関等のメディアでの発言も多い。「水野真紀の魔法の レストラン」(毎日放送)ではコメンテーターを務める。

バネルディスカッション(バネリスト)



高橋 拓児(たかはしたくじ)氏

 京料理木乃網 三代目若主人 1968年京都売生まれ。大学卒業後、「東京吉兆」で5 年間の修業を獲む。ソムリエ資格、利き酒節の資格を 取得しており、集かな発揮で従来の概念にしばられな い独自の京料理を繰り広げる。京料理を「日本食の代 名詞として海外へ浸透させる」ことがライフワーク。 NPO法人日本戦闘アカデミー衛外事業副本部長を機 **MS.**



基調講演



学生研究発表



パネルディスカッション

② 「関西の食文化」ツアー

「関西の食文化」に触れていただき、地域のファンになっていただくことで、「ひとづくり・もの づくり・地域づくり」の促進を図ることを目的に実施した。実施にあたっては、民間の旅行会社 ((株)ビューティフルツアー)と連携し観光商品(有料)として造成した。

8ツアー企画したが、催行人数の関係で3ツアーは中止することとなった。

●VOL. 1 堺こんぶウォーク(堺市)

【催行日】: 平成 25 年 11 月 6日(水)

【内容】:○昆布とウォーキングを合わせた健康的なまち歩き

- ○堺の老舗昆布専門店でめったに見られない「とろろ昆布」「おぼろ昆布」
- の手すき見学
- ○昼食はこのツアー限定の昆布うどん定食

○堺観光ボランティアガイドが堺の歴史スポットを案内

【料 金】: 1,900円

【申込人数】: 15 名 (定員 15 名:最少催行人数 10 名)

●VOL. 2 なにわの伝統野菜収穫体験(大阪府河南町)

【催行日】: 平成 25 年 11 月 17 日(日)

【内容】:○道の駅「かなん」でのお買い物(その日取れたての野菜等)

- ○「なにわの伝統野菜」の説明
- ○「なにわの伝統野菜」収穫体験(収穫した野菜は持ち帰り)
- ○昼食は「なにわ伝統野菜」を使用したカレーライス

【料 金】: 2,200円

【申込人数】: 10 名 (定員 20 名:最少催行人数 10 名)

●VOL. 3 播磨の小京都"たつの"『大切な人』と食べて、触れて、楽しむ思い出の一日を (兵庫県たつの市)

【催行日】: 平成 25 年 11 月 30 日(土)

【内容】: ○ボランティアガイドによる道中案内

- ○地元小学生による施設ガイド
- ○みそづくり体験
- ○昼食には「たつのの郷土料理」
- ○製造工程見学
- ○「うすくち龍野醤油資料館」で本日のおさらい

【料 金】: 大人 4.900 円 小人(小学生以下)1.600 円

【申込人数】: 最少催行人数に満たず中止(定員20名:最少催行人数10名)

●VOL. 4 大和の食とうま酒探訪の旅(奈良県宇陀市・桜井市)

【催行日】: 平成 25 年 11 月 30 日(十) ※バスツアー

【内 容】: ○字陀市松山重要伝統的建造物群保存地区町歩き(ガイド付)

- ○昼食には「薬草料理」
- ○酒蔵見学ときき酒体験

【料 金】: 11,900円

【申込人数】: 最少催行人数に満たず中止(定員40名:最少催行人数25名)

●VOL. 5 伝承料理研究家奥村彪生先生と行く「御食国若狭おばま」への旅「見る・聞く・作る・食べる・浴びる幸(さいわい)を体験しよう!」(福井県小浜市)

【催行日】: 平成 25 年 12 月5日(木) ※バスツアー

【内 容】: ○朽木村郷土資料館で朽木の歴史を学ぶ

- ○御食国若狭おばま食文化館で奥村先生による料理教室
- ○昼食には奥村先生監修の「一汁三菜」料理を堪能
- ○若狭塗箸研ぎ体験
- ○奥村先生の料理教室(鯖寿司)

【料 金】: 9,800円

【申込人数】: 17 名 (定員 22 名:最少催行人数 17 名)

※バスのサイズを変更して催行(大型→中型)

●VOL. 6 醤油発祥の地 湯浅の重要伝統的建造物群保存地区まちあるきと170年連綿と続く手作り醤油作りを感じる旅(和歌山県湯浅町)

【催行日】: 平成 25 年 12 月7日(土) ※バスツアー

【内容】:○昼食にはしらす丼定食を堪能

○重要伝統的建造物群保存地区をまちあるき

○職人蔵・醤油資料館の見学

【料 金】: 7,800円

【申込人数】: 最少催行人数に満たず中止(定員40名:最少催行人数25名)

●VOL. 7 灘五郷 白鶴酒造 搾りたてのお酒を堪能しよう! (神戸市)

【催行日】: 平成 26 年 1月 24 日(金)

【内 容】: ○白鶴資料館を見学

○酒造りの工程を見学

○この時期だけの搾りたてのお酒を堪能

○きき酒コンテスト

【料 金】: 1,900円

【申込人数】: 7名(定員30名:最少催行人数10名)

※最少催行人数には満たなかったが、白鶴酒造の了解が得られたため催行

●VOL. 8 五感で感じる伝統の酒(大阪府交野市)

【催行日】: 平成 26 年 2月 22 日(土)

【内 容】: ○山野酒造にて酒蔵見学

○山野社長による日本酒講座

○試飲(昼食付)

【料 金】: 3,500円

【申込人数】: 20 名 (定員 20 名:最少催行人数 10 名)



VOL. 1 堺こんぶツアー (H25.11.6)

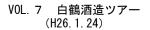


VOL. 2 なにわの伝統野菜収穫体験 (H25.11.17)



VOL. 5 御食国おばまツアー (H25.12.5)







VOL. 8 山野酒造ツアー (H26. 2. 22)



ツアー紹介記事(日本経済新聞) (H25.10.16)

③ プロモーション事業

本事業の取組を広く情報発信するために、前年度に引き続きホームページ上での情報発信や「公式ガイドブック」を作成し、配付した。また、ガイドブックの内容をコンパクトにまとめた「リーフレット」も作成し、配付した。さらに、取組の認知度向上のために非常に有効と考えられるSNSとして「はなやか関西公式Facebookページ」の運用を昨年度に引き続き行った。なお、具体の取組についても、実施時期を考慮しながらそれぞれチラシを作成し、これらのツールを活用しながらプロモーションを行った。

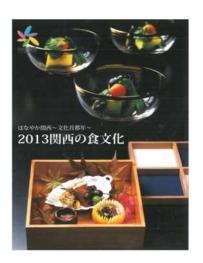
●ホームページ上での情報発信

実行委員会の取組、「取組参加団体」等の情報をホームページ上より発信した。



- ●『はなやか関西~文化首都年~2013「関西の食文化」』公式ガイドブック
- ●『はなやか関西~文化首都年~2013「関西の食文化」』リーフレット

「取組参加団体」等の情報を冊子にまとめ、分かりやすいガイドブックを作成した。また、その情報を要約し、一目で分かるリーフレットの作成も行った。配付にあたっては、予算の制約上作成部数が少なかったため、取組参加団体及び構成機関の意見も参考に戦略的に配付を行った。



【配布先】

- •取組参加団体
- ·文化会館·公民館
- •観光協会
- ・図書館などの公共施設
- ・県庁・市役所等のロビー
- •管内直轄事務所 等

●『はなやか関西〜文化首都年〜2013「関西の食文化」』公式Facebookページ 平成24年度からの試みとして、SNSとして知名度が高く取組の認知度向上に非常に有効と考えられる、Facebookによる情報発信を行った。



●具体の取組にかかるチラシの作成・配付

シンポジウムやツアーの実施にあたっては、応募用紙を兼ねたPRチラシを作成し、公式ガイドブック等と同様戦略的に各方面へ配付を行った。



シンポジウムチラシ



VOL.1 堺こんぶツアーチラシ



VOL. 2 「収穫体験」ツアーチラシ



VOL. 3 「たつの」ツアーチラシ



VOL. 4 「大和の酒」ツアーチラシ



VOL. 5 「おばま」ツアーチラシ



VOL. 6 「湯浅」ツアーチラシ



VOL. 7 白鶴酒造ツアーチラシ



VOL. 8 山野酒造ツアーチラシ

4 「はなやか関西」タイアップ企画

「はなやか関西」を国内外に広く情報発信するため、以下のタイアップ企画が行われた。

●「関西の食文化とフードツーリズム」フォーラム

「はなやか関西~文化首都年~」の平成25年度テーマ「関西の食文化」の取組事業の一つとして、取組参加団体フードツーリズム研究会による「関西の食文化とフードツーリズム」フォーラムが平成25年9月14日(土)「大阪府立大学 I-siteなんば」で行われた。特別講演者として、アル・ケッチァーノ オーナーシェフの奥田政行氏をお迎えし、また、カタシモワインフード(株)の高井利洋氏から大阪のワインツーリズム、奈良県地域振興部の福野博昭氏から奈良の農家レストランの取組もご紹介いただきながら、これからのフードツーリズムについて語られた。



パネルディスカッション風景

●KBSラジオ特別企画ツアー

KBS京都主催、旅行企画・実施(株)ビューティフルツアーの「舞鶴とれとれ 年末日帰り バスツアー」に『関連事業』として参加した。同時期に実施していた「はなやか関西~文化首都年~2013 企画ツアー」では訪ねることができなかった地域を掘り起こすことができたと考える。北近畿 舞鶴の食文化を十分堪能でき、参加者による今後の発進力にも期待できるだけのツアー内容であった。



【実施日】平成25年12月21日(土) 【料金】お一人様 ¥9,000 【申込人数】40名 【協賛・協力】 舞鶴さかなセンター協同組合、京・綾部ホテル、キリンビール京滋支社等

●「なにわの伝統野菜」PR企画

取組参加団体のNPO法人シニア自然大学校「なにわの伝統野菜研究会」は平成25年7月6日(土)、大阪市中央区のフレンチレストラン「野菜物語せろり」で「なにわの伝統野菜」の食事会を開催した。同サークルに所属する元気印シニアたちを中心に、伝統野菜に関心を示すシェフやマスコミ関係者ら20人が参加し、大阪食文化の象徴である「なにわ伝統野菜」を使った料理に舌鼓を打ちながら、継承や活用について語り合った。





2. 効果の把握と課題の抽出

本事業では、「関西の食文化」に関する多種多様な主体、民間旅行会社、そして学生との連携の下、様々な取組を行うことによって産学官民一体となって関西ブランドとしての「関西の食文化」を発信してきた。これら施策について、効果と課題を抽出する。

(1)効果と課題

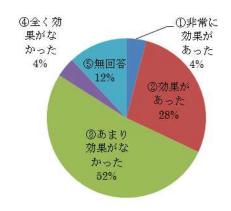
①「はなやか関西~文化首都年~」及び各取組参加団体の活動の認知度向上

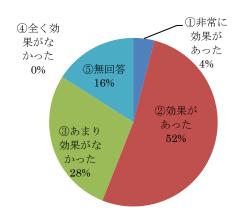
■取組参加の効果について

取組参加団体個々のPRということで見ると、「非常に効果があった」あるいは「効果があった」という回答が約3割と、効果を認識してもらえる取組を行ったとは必ずしも言えない。

ただ、「関西の食文化」に対する理解の向上ということで見ると、約6割が「非常に効果があった」あるいは「効果があった」という回答であり、全体としての取組の方向性は間違ってはいなかったと理解できる。

【取組参加団体からのアンケート結果】

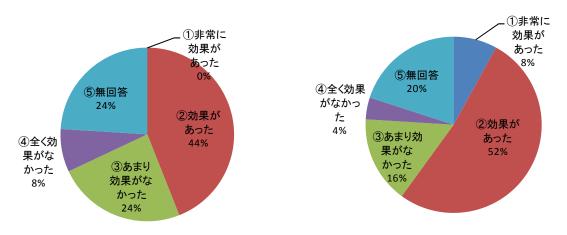




本事業が活動・商品等の PR に効果があったか

本事業が「関西の食文化」に対する理解の向上 に効果があったか 各地域の取組を「つなぐ」効果があったかについては、「効果があった」という回答が 半数に達しなかった。今後、「つなぐ」ことに、より力を入れた取組の必要性を感じる。

また、各地域の取組を発信する効果については、ガイドブックやリーフレットの配布、あるいはホームページやフェイスブックでの情報発信を行った結果、6割以上の回答が「効果があった」というものであった。一方、リーフレット等の配布部数が少ない、配布先を考えるべき、あるいは「はなやか関西~文化首都年~」のホームページやフェイスブックを見たことがないとの意見もあり、今後、検討すべき課題である。



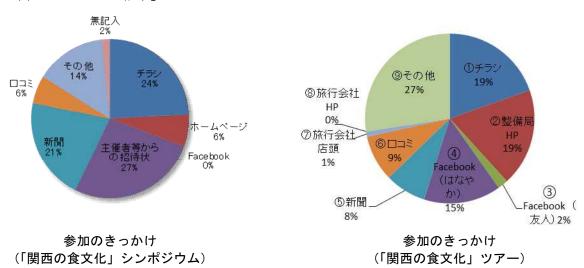
本事業は各地域の取組をつなぐ効果があったか 本事業は各地域の取組を発信する効果があったか たか

■公式フェイスブックの運営

昨年度より新たな試みとして行った「はなやか関西公式フェイスブック」ページの開設については、「いいね!」の登録者数が215名(平成26年3月31日現在)となっている。必ずしも多いとは言えないが登録者からの波及効果も考慮すると、フェイスブックの認知度も徐々にではあるが向上していると考えられる。

また、アンケート結果によると、ツアーではフェイスブックによる参加者が 17%存在している一方、フォーラムについてはフェイスブックによる参加者がいなかった。「はなやか関西公式フェイスブック」の認知度をより高める方法を、今後検討していく必要がある。

【各取組に対するアンケート結果】

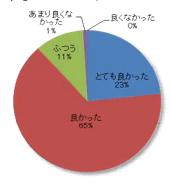


■「関西の食文化」シンポジウムの実施

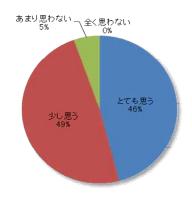
「関西の食文化」シンポジウムについては、定員 180 名に対して参加者数が 151 名であり (集客率 80%以上)、一定の集客がなされた。(募集段階では 250 名程度応募あり) 参加者へのアンケート結果において、全体評価では、9割近くが「とても良かった」「良かった」と回答しており、基調講演、学生研究発表、パネルディスカッションすべてにおいて、良いアンケート結果が得られた。

シンポジウムの実施により「関西の食文化」に対する関心の向上、文化首都圏・関西のアピールに一定の効果があったと考えられる。

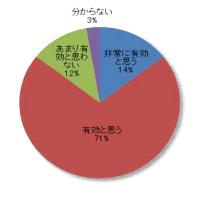
【「関西の食文化」シンポジウムのアンケート結果】



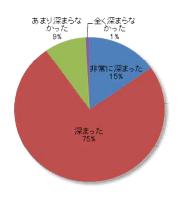
全体評価



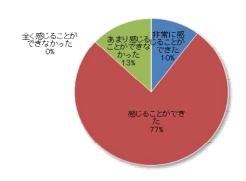
「関西の食文化」に対して深く知りたいと思ったか?



関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思われますか?



「関西の食文化」についての理解、 関心は深まったか?



関西の「本物の文化」を感じることが できたか?

シンポジウムについては、若年層(学生)から高齢層まで幅広い参加者を集めることができた。集客に成功した理由としては、昨年末「和食;日本人の伝統的な食文化」が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録されたこと、開催場所が大阪・梅田のグランフロント大阪という話題性の高い場所であったことなどが考えられる。また、交通結節点での開催ということで、関西一円の幅広い居住地から集客が得られたと言える。

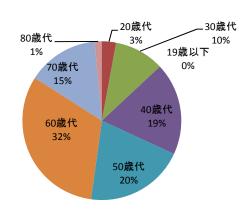
ツアーについては、出発地あるいは目的地が大阪である企画が多く、参加者の約8割が大阪府内の方であった。集客を考えた方向性については、間違えていなかったと考えられるが、年齢層については、50代以上が約7割を占めており、若年層の参加者数が限定的(必ずしも多くない)であったことは反省すべき点である。

今後は、知名度向上に向け、より効果的な取組を検討し、「関西の食文化」に関心を持つ者の拡大に努める必要がある。

【参加者の年齢に関するアンケート結果】

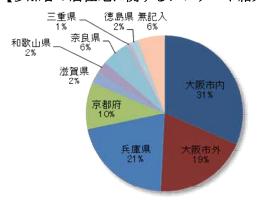


参加者年齢構成 (「関西の食文化」シンポジウム)

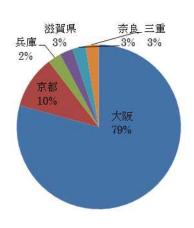


参加者年齢構成 (「関西の食文化」ツアー)

【参加者の居住地に関するアンケート結果】



参加者居住地 (「関西の食文化」シンポジウム)



参加者居住地
(「関西の食文化」ツアー)

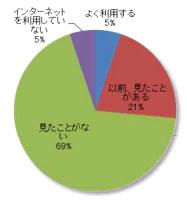
「はなやか関西~文化首都年~」そのものに関しては、アンケート結果で「取組の内容まで知っている」と回答した人が、シンポジウム、ツアーともに3割弱。また、「はなやか関西~文化首都年~」のホームページ等についても、「見たことがない」との回答

がシンポジウム、ツアーともに7割程度という結果であった。このことから、シンポジウムやツアー参加者以外の一般の人々の認知度は極めて低いと考えられ、今後はこれまで以上に「はなやか関西~文化首都年~」の認知度向上に向けたプロモーション事業に注力していく必要がある。

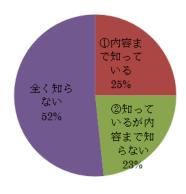
【認知度に関するアンケート結果】



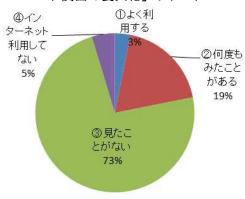
「はなやか関西〜文化首都年〜」の認知度 (「関西の食文化」シンポジウム)



ホームページ等の認知度 (「関西の食文化」シンポジウム)



「はなやか関西~文化首都年~」の認知度 (「関西の食文化」ツアー)



ホームページ等の認知度 (「関西の食文化」ツアー)

②地域振興·経済波及効果

■学生研究発表会の実施

学生研究発表会は、「関西の食文化」シンポジウムのプログラムの一つとして広く一般公募し実施した。

その結果8件の提案があり、厳正な事前審査を行いそのうち4件がシンポジウムの場で発表されることになった。準備期間が短いにも関わらず複数件の提案があり、新しい視点・発想による「関西の食文化」のニーズの掘り起こし・継承・発展に関して一定の成果があったと思われる。

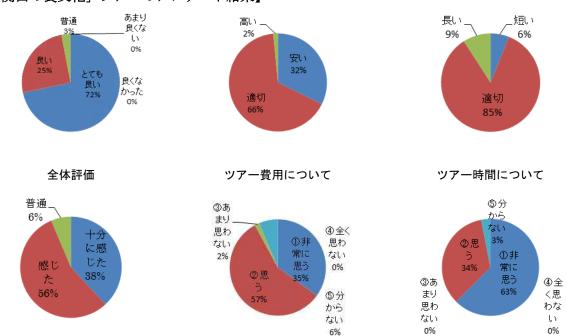
■有料ツアーの実施

有料ツアーの実施については、8本のツアーを企画し、5本のツアーを催行した。 参加者へのアンケート結果によると、全体評価では全てのツアーで9割以上が「とて も良かった」「良かった」と回答しており、高い評価を得た。 費用では、「高い」との回答はほとんどなく、概ね適切であったと考えられる。 また、時間についても、「適切」との回答が数多くあった。

「地域の魅力」についても、「感じられなかった」との意見は全くなく、ツアーを通じて地域の魅力発信に貢献できたと考えられる。

『関西は「本物の文化」が今も根付く我が国いちばんの地域だと思うか?』(関西=文化首都)という問いに対して、9割以上の参加者から「思う」という回答があった。また、『関西が「本物の文化」をテーマにとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか?(「関西の本物の文化」を発信するプログラムとして有効か)』という問いに対しても、9割以上の参加者から「思う」という回答があった。今後はこれらの回答に応えられるような取組を検討していく必要がある。

【「関西の食文化」ツアーのアンケート結果】



「地域の魅力」を感じることがで きたか

「関西=文化首都」の印象はあるか

「関西の本物の文化」を発信する プログラムとして有効か

(2) 総括

①「はなやか関西~文化首都年~」及び各取組参加団体の活動の認知度向上

プロモーション事業の実施やシンポジウム等の開催により、関西の食文化及び各取組参加団体の活動の認知度向上、文化首都圏・関西のPRに一定の成果があったと考えられる。しかしながら、必ずしも関西において広く一般に認知される取組にはなっていないため、「はなやか関西」の認知度向上に向けて、より効果的なプロモーションについて検討が必要である。

②地域振興・経済波及効果

学生発表やツアーの開催により、若年層の取り込みやツアー実施による経済波及効果、 文化首都圏・関西のPRに一定の成果があったと考えられる。 学生の活用については、ここ数年の取組により大学・学生とのつながりが生まれつつあることから、今後も学生を活用したイベント等を検討し、つながりの維持・拡大を目指す必要がある。

ただ、ツアーについては、前述のとおり参加者が限定的であることから、今後、より効果の上がる方法を検討する必要がある。

③インバウンド観光

インバウンド効果という意味では、効果的な取組が乏しかった。

26年度は、インバウンド効果を高めていくことも検討する必要がある。

構成機関の中には、インバウンドに焦点を当てた取組を計画している機関もあり、「はなやか関西~文化首都年~」タイアップ企画としてのイベント等を考えていきたい。

||.今後の展開方策

本事業の実施を踏まえ、次年度以降の展開方策について検討を行う。その際、近畿圏の活性化を図るため、近畿圏広域地方計画の趣旨を活かして多様な主体との連動性を向上させ、広域的な連携支援のあり方となるよう留意する。

1. 今後の展開方策について

(1) 基本的な考え方

■「はなやか関西~文化首都年~」の取組は「意義がある」との意見が大半

本事業によるアンケート結果より、関西は本物の文化が今も根付く、一番の地域(文化首都)であると多くの人が認識していることが分かった。また、「はなやか関西~文化首都年~」の取組(「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信する)に意義があるとの回答も非常に多かった。

歴史的・文化的な「本物」の地域資源が豊富に存在する関西の優位性を活かし、「はなやか関西〜文化首都年〜」の取組を引き続き実施していく必要がある。

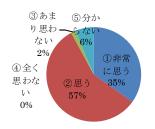
【「はなやか関西~文化首都年~」に関するアンケート結果】



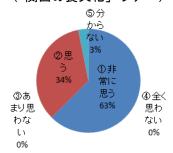
関西が文化の首都だと思うか (「関西の食文化」シンポジウム)



「はなやか関西~文化首都年~」 の取組は意義があるか (「関西の食文化」シンポジウム)



関西が文化の首都だと思うか(「関西の食文化」ツアー)



「はなやか関西~文化首都年~」 の取組は意義があるか (「関西の食文化」ツアー)

■ できることを着実に積み上げ実績を残す

今後、「はなやか関西~文化首都年~」の動きを拡大していくためには、認知度を向上させ、また取組参加団体が積極的に参加することでネットワークが生まれ、継続的な取組が可能となる、という体制作りが必要である。そのためにも、関係機関や取組参加団体、有識者委員会委員等のそれぞれが協力し合い、可能な限り資源を出し合い、実績を着実に積み上げ、「はなやか関西~文化首都年~」の輪を広げていくことが重要であ

る。望ましい推進体制構築に向けて、様々な形態を試行・検証していくものとする。

(2) 平成25年度の効果と課題を踏まえた具体的な取組方針について

①「はなやか関西~文化首都年~」の認知度向上に向けて

■ アドバイザー体制の継続

本事業においては、実行委員長に

●石毛 直道 氏(国立民族学博物館 名誉教授)

またアドバイザーとして

- ●尾家 建生 氏(大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員)
- ●奥村 彪生 氏(学術博士·伝承料理研究家)
- ●髙田 公理 氏(佛教大学社会学部教授)

にご協力いただきながら各取組を実施してきた。

「はなやか関西〜文化首都年〜」を通じて文化首都圏を確立していく上では、関西の本物の文化をリードする方々の協力は不可欠であり、今後も、テーマに関して通暁する有識者を配置することが望ましい。

これに加え、「はなやか関西~文化首都年~」の情報発信強化の観点からは、情報発信・広報に強みを持つ有識者の方にも協力いただけるよう積極的に働きかけることが必要と考えられる。

■ 公式フェイスブックの継続

「関西の食文化」公式フェイスブックを通して生まれた繋がりを次年度以降にも継続するために、引き続き公式フェイスブックでの取組は重要と考える。

■ 関係機関の参加促進

関西が文化首都圏を強く推進していくためには、関係機関の協力が不可欠と言える。 このため、本事業では関係機関の文化・観光部局の担当にオブザーバーとして参加いた だき、取組に対しての調整等を行ってきた。引き続き、プロモーション等の面で協力・ 連携しながら取組を実施していくこととする。

また、今後は、関西の観光や魅力発信に取り組む民間団体等との関係強化にも取り組むことが重要と考えられる。

■ 各地域の取組団体への積極的アプローチ

各地域の取組団体に対しても「はなやか関西~文化首都年~」の認知度は高いとは言えないため、広く協力を得るために、関係機関の協力を得ながら事務局等から積極的にアプローチを行い、参加打診を行っていく必要がある。

②地域振興・経済波及効果の強化に向けて

■ 学生の参加促進

本事業では、

- 「関西の食文化」に係わる対象を若年層にも広げる
- 「関西の食文化」を新しい世代により盛り上げていく
- 「文化首都圏・関西」づくりに新鮮な意見を取り込む

という効果を期待して"はなやか関西"「関西の食文化」シンポジウムの中で、学生研究

発表会を行った。この取組はアンケート結果でも高い評価を得ており、一層の参加促進に 向けた取組を検討することが重要である。

■ 民間の参加促進

「はなやか関西~文化首都年~」の魅力向上のためには、民間の協力が不可欠である。本事業では民間の旅行会社による「関西の食文化」ツアー(有料プログラム)を観光商品として企画した。ツアーの実施は地域振興に有効であると考えられるため、来年度以降も今年度の結果を踏まえ、より魅力的なツアーの実施方策を検討することが重要である。

③インバウンド観光の強化に向けて

関西の価値を国外へ発信するために、構成機関や経済団体等が主催する国外向けの取組とのタイアップを検討する。また、関係機関や経済団体等と連携し、外国人対象のモニターツアー等の実施を検討していくことも一例である。

2. 「関西の食文化」(2014年度)の継続について

■ テーマを継続することで取組参加団体のネットワークを強化する

これまで、「はなやか関西〜文化首都年〜」のテーマについては、毎年度テーマを変えて取り組んできた。ただ、取組は、継続することにより認知度及び効果が高まっていくとも考えられる。

昨年末、国連教育科学文化機関(ユネスコ)が「和食;日本人の伝統的な食文化」を 無形文化遺産として登録した。自治体や経済団体等の構成機関をはじめ、取組参加団体 の中にも、この機を活かそうという動きがある。

引き続き「関西の食文化」をテーマとして取り組んでいくことで、今年度の反省を踏まえた、より効果的な発信力が期待できる。構成機関とも協力し、取組参加団体同士を"つなぐ"ことで魅力発信に取り組んでいきたい。